尾州有楽流　風炉　置き水指　薄茶点前

※茶碗に茶巾を入れ、茶筅を穂先を上にして仕組み、茶杓を仰向けて置く
※建水に蓋置を入れ、柄杓を掛ける（合を建水の外に落として）
※ここでは一番初歩の点前として水指のみを飾る「置き水指の薄茶点前」を解説するが、実際には茶器・茶碗を水指前などに飾るなど、できるだけ最初から必要な道具を飾り付けておくことを推奨

＊＊＊

右手に茶器・左手に茶碗を持って、茶道口前に座って茶器・茶碗を脇に下ろし、襖をあけて客に一礼

茶器→茶碗の順に持ち上げ、立ち上がり、茶碗のほうをやや高くして運び入れ（下座の足から敷居を越え、また下座の足から点前畳に入る）、点前座定座に座り、茶器・茶碗を居前に茶器→茶碗の順で置く

茶器を右手で、水指前の少し右寄りに置く

茶碗を茶器の左に置く（茶器の右端から茶碗の左端までの中央が水指中央の真ん前になるように）

立ち上がって、茶道口に戻る

建水を左手で持って入り、点前畳の前に座って、少し左手をのばして、建水の定座に置く。（定座に届かなければ、届く範囲で良い）

向きを変えて敷居のほうまで戻り、敷居前に座って（客に完全に背を向けないように少し斜めに座る）、襖を閉める

点前畳に戻って定所に座る

柄杓を左手で取って右手に持ち替え、左手で蓋置を取って右手の柄杓と持ち替える

右手で蓋置を持って右膝上あたりで正面を確認し、敷板の左（敷板前端の延長線から出ないあたり）に置く

柄杓を右手に持ち替え、蓋置に引く（切留は釜の蓋の摘みの位置）

客へ挨拶

※居住まいを直すのであれば、ここで直す
※建水が左膝あたりの定所になければ、このとき建水を定所に移す

茶碗を左手で取り、右手で居前の少し向こうに置く

茶器を左手で取り、居前に置く

帛紗を右手で取って、草に捌く

茶器を左手で取り、棗ならば左から右に一文字に拭き、そのまま右横で拭き下ろす

茶器を左手で水指の真ん前に置く。（茶杓を置いたときに、茶杓の櫂先が敷板の延長線にかかるくらいの位置）

帛紗を打ち返して、上の三角を右手で取る

再度帛紗を捌き、二つ折して上の角を折り込む

先ず茶杓の平面を拭き、側面を拭く。側面を拭いたら、そのまま拭き抜く

折り込んだ帛紗の上の角をひろげて取り、再度捌いて二つ折りする

二つ折りのまま、茶杓の追取を拭く

茶杓を棗のうえに置く

茶筅を取り、綴じ目（茶筅の正面）を確認し、茶器の右、かつ茶器から少し下がったところに置く

茶碗を少し手前に引く

柄杓を右手で取って、その間に帛紗を持っている左手の人差し指を帛紗の上（表面）に出し（親指と人差し指が帛紗の表面に出ている状態になる）、帛紗を持っている左手親指と人差し指で柄杓の節のすぐ下あたりを取って左膝上で柄杓を縦にし（自然に右手は柄杓の切留あたりにくる）、左手をそのまま右手の上・柄杓の切留の少し上あたりまですべらせて下げる

右手を柄杓から離し、右手で左手の帛紗を抜きとる

帛紗が茶杓の追取を拭いて逆折になっているので、さっと草のかたちに戻す

帛紗（草のかたちに直したかたちそのまま）で釜の蓋を先ず閉め、
帛紗を打ち返して勝手付に向かって、摘みの上→摘みの下と、釜の蓋上を清める

帛紗をまた打ち返して釜の蓋をあけ、蓋置に置く

帛紗を右膝上で広げて腰に付ける
（帛紗を上下方向に打ち返して、帛紗の下の角（上から二枚目）を取って広げ、二つ折りにしてそのまま腰に付ける）

茶巾を釜蓋上に置く

湯を一杓汲んで茶碗に入れ、「引き柄杓」で釜にかける

茶筅を取って茶碗正面から茶碗に入れてすぐに右横に置き、茶筅を持つ手を持ち替え（親指が上に）、このとき同時に左手も茶碗に添えて、必要に応じて茶碗を右に傾け、茶筅打ちを三回おこなう（親指が上のまま茶筅を持ち上げて途中から茶筅を三分の一ほど手前に回して穂先を見、そのまま下ろして自然に 6 時方向にくるようにし、6 時→3 時→12 時の方向に回し、やや 9 時方向にいく気分で手を打ち返して手の甲が上になる感じで 3 時方向に茶筅を置く、というのを 3 回繰り返す）

さっと茶筅を振る

茶碗を取って、逆廻しにさっと回す

茶巾を取って右手に持たせて右手は膝上におき

茶碗の湯を捨て、茶巾で露を切り、茶巾を茶碗のなかに入れる

茶碗に入れた茶巾を上下に反転させる

茶巾をひろげ、茶碗の縁を茶巾で挟んで三回ほど茶碗を逆時計回しに回して拭き、茶巾を抜きとって、茶碗の内側を「ゆ」の字を書くように縦に三回拭く

拭いたら再度茶巾を上下に反転させておく

茶碗を置いて、茶巾の手前を取って広げて茶巾を畳み直し、茶巾を釜蓋上に置く

手の湿りを取る

右手で茶杓、左手で茶器を取って、茶杓を握り込んで蓋をあけ、茶碗の脇に置く

適量の茶を掬い出して茶碗に入れる

茶器のなかの茶を整え、次いで茶碗のなかの茶をよくこなす

茶碗の縁で茶杓を打って茶杓についた茶を落とし、茶器の元のように置く

水指の蓋をあける
（右手で取って左手に持たせ（必要ならば露を切り）、右手で水指の右（客付）に蓋上が客付になるように置く）

柄杓を上から取って持ち替え（「行」の取り方）、水指から水を汲み、釜に水を一杓差す

そのまま湯を汲み、適量を茶碗に入れ、残りの湯を戻して柄杓を釜に切り柄杓で掛ける

茶筅を取って茶を点てる

茶筅を元のところに戻す

茶碗を右横に仮置きして振り向く

茶の点て具合を確認し、茶碗を客に向けて出す

※客からの「頂戴します」の挨拶をうける
※客が自分より上位の場合は、客が茶を飲んでいる間、手を両脇につくなどして控えている

茶碗が戻ったら客付に振り向き、茶碗を取り込んで茶碗内を確認

風炉に向かい、茶碗を居前に置く

柄杓を取り（湯の場合は柄の裏（下）から掬い取る）、一杓湯を汲んで、茶碗に入れる

柄杓を釜に引き柄杓で掛け、茶碗を取って、よく回して茶を落とす

湯を捨てて、茶碗を居前に置く

仕舞いにする旨の挨拶

柄杓を上から取って節のあたりで左手を添えて持ち替え（「真」の取り方）、水指から水を一杓汲んで茶碗に入れる

柄杓を釜に置き柄杓（留め柄杓）で掛ける

茶筅を取って茶碗に入れ、茶筅打ちを一度して茶筅をすすぐ

茶筅を元の通りに置き、茶碗を取って水を捨てる

茶碗を居前に置く

茶巾を取って茶碗に仕込む

茶筅を取って、左手を添えて持ち直し、綴じ目（正面）を上にして茶碗に仕込む

帛紗を取って捌き、二つ折して上の角を折り込む

茶杓を取ってまず一度拭く

帛紗の上の角の折り込みを外して再度拭く
（折り込んだまま再度拭いても良い）

帛紗に茶が付いていたら建水上で払う
（茶杓を持ったままでよい）

再度捌いて二つ折りし、そのまま茶杓の追取を拭く

茶杓を茶碗にわたして掛ける

帛紗の上の角を取って広げ内折して、帛紗を腰に納める

茶器を右手で右に移し

茶碗を右手で取って左手で茶入の左に移す

柄杓を取って合を水指の前の縁に仰向けに掛けて持ち直し（「草」の取り方）、適宜に水を汲んで釜に入れる

水を入れ終えたら湯返しをする

釜の前の縁に柄杓の合を掛けて持ち直す

柄杓を左膝上に縦にもってきて、左手で節のすぐ下を取り、右手を切留まで下げて、左手も右手のすぐ上まで下げて右手を離し（左手で柄杓を構えている状態になる）、右手で釜の蓋をする

そのまま右手で蓋置を少し手前に移す

柄杓の合をその蓋置の上に置き、
左手で建水を引いて、その建水の縁に柄杓の柄を掛ける

左手で水指の蓋を取る
（どうにも取り難ければ右手で）

右手に持ち替え水指の蓋を閉める

≪拝見の無い場合≫

茶道口に戻り、襖を開けておく

襖を開けたら点前座に戻って、柄杓を右手で取りすぐ横にして、蓋置を左手で取って右手に持たせ、建水を左手で取って、左廻りして茶道口（水屋）に下がる

再び点前座に出て、茶碗を居前（自分の中央の少し左）に置き、茶器も居前（茶碗の右）に仮置きし、すぐ茶器→茶碗と取って立ち上がり、茶道口に下がる

茶道口から出たところで座り、茶器→茶碗と脇におろして、客に一礼し、襖を閉める

≪拝見のある場合≫

客からの拝見の所望を受ける

茶器を右手で取り、客付に振り向き、居前に置く

右手で茶碗を水指の真中通りに移す

帛紗を草に捌いて、茶器を点前の始めと同じ方法で清める

右手の帛紗と左手の茶器を取り替える
茶入を客を方に向けて出す

帛紗を袂に入れる
（懐中してもよい）

茶杓を客に向け、茶器の下座に置いて出す

柄杓・蓋置・建水を持って下がる前に、先に茶道口の襖を開けておく

襖を開けたら点前座に戻って、柄杓を右手で取りすぐ横にして、蓋置を左手で取って右手に持たせ、
建水を左手で取って、左廻りして茶道口に下がる

茶碗を右手で取って、居前に一度置いて少し持ち直して持ち、右廻りして下がる

茶道口を閉め、道具が戻るのを待つ

道具が戻ったら茶道口を開けて点前座に出て、客の方（鍵畳を方）を向いて座る

茶器を居前に取り込み、それから茶杓を右手で取って左手に持たせ、右手で居前の茶器を取る

客から一礼があるので、道具を持ったままお辞儀をする

茶道口から出たところで座り、脇に茶器・茶杓を置いて一礼し、襖を閉める

※茶碗・茶器・釜などでの物の出し入れやそれに類する所作をおこなう場合は、正面からの出し入れを意識しておこなう。
※重いものは軽そうに、軽いものは重そうに、諸事、自然法則の逆を意識しておこなう。「御茶」や「茶入」については、特に自然法則に関係なく重そうに扱う。